

事例④

知的障がいのある生徒が見通しをもって活動できる課題の工夫

授業づくりの視点

◆経験の浅い先生たち、学級でこんなこと感じていませんか？

- 学習に対する意欲が低く、集中が続かない生徒へどのように支援したらよいか分からない。

- ② 主体的な学びを促す
「分かって動ける」授業づくり

◆例えば、「数学科」で、こんなことから始めてみましょう。

- 数学科「角の大きさ」
- 中学校
- 特別支援学級（知的障がい）

本時の目標

- ・角の大きさを回転の大きさと捉え、それを任意の単位を用いて表そうとすることができる。

ファーストステップ②

- ・既習事項を振り返り、本時の課題に対する見通しをもてるようにしましょう。
- ・生徒が主体的に学ぶために、具体物の操作を取り入れましょう。

	学習活動	手立て／留意点
導入	○ 角の大きさの定義の確認 ○ <u>キャラクターの口の大きさ</u>を比較	※<u>動画</u>で確認 ※<u>具体物</u>を使って比較
展開	○ 本時の学習課題 「角の大きさの違いの表し方を考えよう」 ○ <u>活動の見通し</u> ・既習事項の振り返り（水のかさや図形の面積の比べ方） ○ 各自で方針を決め、<u>具体物を使って大きさを比較</u> ○ <u>考え方を発表、交流</u>	※プレゼンテーションソフトや具体物使い、比べ方を視覚的に分かるように工夫 ※個人用に比較する道具を配付
終末	○ 比べ方のまとめ ○ <u>振り返り</u>	

ファーストステップ③

- ・他の生徒と考えを交流、共有させ、自身の活動に自信をもたせましょう。
- ・次時の予告をすることで、学習に対する期待感をもたせましょう。

ファーストステップ！

ファーストステップ①

- ・全体で確認が必要なところは、プレゼンテーションソフトなどを使い、視覚的に分かりやすく提示しましょう。
- ・生徒の身近にあるものや生活と結び付けた課題を設定し、学習への意欲を引き出しましょう。

